

平成24年度第1回 福岡市中央卸売市場開設運営協議会 議事録

1. 開催日時 平成24年7月31日（火）10:00～
2. 場 所 福岡市中央卸売市場鮮魚市場会館2階 第1会議室
3. 出席者 福岡市中央卸売市場開設運営協議会委員 14名（別紙委員名簿参照）
欠席：波積委員，谷健二委員（代理），
市側：農林水産局長 外7名（課長以上）
4. 傍聴人 なし
5. 議 題 （1）所属部会の決定について
6. 報 告 （1）新青果市場整備事業の進捗状況について

7. 会議内容

農林水産局長あいさつ，開設者（今年度転入者）紹介の後，議事に入る。

【議題1 所属部会の決定について】

今年度，専門委員3名が新たに委員となり，事務局よりこれまでの慣例による所属部会案を説明。

会長が，事務局案のとおり決定。

【報告事項1 新青果市場整備事業の進捗状況について】

事務局より説明。

議 長： 事務局から説明がありました「新青果市場整備事業の進捗状況について」の報告について，何か意見・質問は。

委 員： 経営展望基本戦略概要の中で，今後目指すべき市場のうち，港湾機能に直結し，アジアも視野に入れた拠点市場について，取り組み例が掲げられているが，現在これらの取り組みがどのようになっているのかということと，例えば，今後，どの程度の販売先を確保する予定なのかなど，詳しく伺いたい。

事 務 局： 港湾機能に直結し，というこの項目については，他都市に比べると立地条件などから本市市場の強みであると考えている。本来なら関連の委員からの説明の方が適切であると思うが，現在は，卸売会社である大同青果において，台湾の台北にある卸売会社と姉妹市場を提携しており，すでに長い間，取引がなされている。現在は，平成22年度ベースでこちらからの輸出として700ト～800ト程度，2～3億円程度の実績がある。

ただ，これが少ない要因としては，現在の中央卸売市場は輸出自体を想定しておらず，都市圏若しくは周辺都市に安定供給するということで，どちらかというとな例外的な取り扱いである。今後は大同青果を中心にそこに掲げている内容を今後行動計画の中でより具体的に，誰がいつまでに何をするのかなど検討し実践していきたい。輸入については，原産地の関係で市場でもきちんと実績はわかっているが，輸出については，一度卸売業者から購入した小売業者や仲卸業者が輸出されるとなか

なか数量が把握しづらいところがある。先ほど説明した700トン〜800トン、2〜3億円という数字は卸売業者を経由した取り組みであり、実際はこれ以上にあると考える。

委員：今回、進捗状況ということで、いろいろと説明を受け、状況的にはいろいろと進んでいるものと思う。一方で、議会でも昨年の開設運営協議会でも質問したが、新青果市場の移転について、私も実際に聞いているが、小売業者の方とか関連業界の方から様々な要望が出されている。この会議の中で、どのような要望があって、それについてどのような問題があり、その検討についてどのようになっているのかというのを資料を示し同時に説明して欲しい。本体がこうなっていますよとか説明があっても、実際に不安を抱えている方々がどうなっているのかという部分も共有しておかなければならないと思うが、その点についてどうか。

委員：進捗状況の説明を受け、りっぱなものができるのだろうと思うが、委員からも話があったように関係者からいろいろと要望があっている。新市場の中に入られる方のことは一番大事だと思うが、その要望事項に対する進捗状況について聞かせて欲しい。ここにお見えの関連の委員さんいかがか。

委員：市場業界を代表して、業界の現況についてまとめたものを報告したい。新市場の整備については、先ほど開設者より報告があったように、経営展望、施設整備に向けた設計、ソフト面あるいはハード面などの検討を進めている。

安心・安全な生鮮食料品を供給することが私どもの使命である。将来にわたって消費者のみなさんが安心して購入していただけるように、開設者といろんな面で協力しながら、新市場の整備について進めていくということが基本的な考えである。

しかしながら一方では、先ほど質問があったように、新青果市場の移転に向けては、業界の不安は大きいものが現実としてある。新市場の検討が進むにつれて、新市場での営業が継続できるのかなど、切実な不安があるのも事実である。みなさまご承知のとおり、今日の市場流通関係団体の経営が非常に厳しい状況に直面している。そのような中、業界としても新市場の整備の必要性は十分理解しているが、明日が見えないという仲卸業者や小売業者の方々も多い。そのため、移転に際しては、開設者から一定の支援をするという回答をもらっているが、開設者からの支援があったとしても、業界としてはあらたな設備投資が出てくる。

新市場への移転に際して、大きな不安を抱えている業者が多数いることは切実な問題である。業界としてもこれらの不安を払拭したいということで、新市場で経営を安定させるためにも、必要な支援策を充実、要望するために現在も業界の意見を集約している。いろんな意見がある中で、現在集約作業を進めている。そして、業界の意見が集約できた段階で、議員のみなさまへあらためてお力添えをこの場でもお願いしておきたい。何とぞご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願いしたい。

新市場に向けては、将来展望など先ほど開設者より説明があったが、その前に業界の不安や要望などについても取りまとめを進めていきたい。市場整備の中で、どのような支援が要請できるのかなど早急に取りまとめたい。

事務局：新市場への移転にあたっては、各市場関係者のみなさま方の負担を軽減して、新市場での経営基盤の安定、もしくは市場全体の機能向上を図るために、市場関係者

のみなさま方へできる限りの支援策を実施するというふうに考えている。

要望があっていた7項目、都市高速道路の延伸を含めたIC周辺道路環境の整備、それから施設使用料増加の抑制、3点目が助成措置、4点目が中継所の設置、5点目が自然災害における対策、6点目が新市場関係者事業用地の確保、それから7点目に先ほど説明した、食の情報発信の場の確保ということで多目的広場の確保という7つの要望項目が出されている。開設者としては平成23年1月31日付けで、要望があっていた7項目に対して、より具体的な支援策について、回答している。この時点で、小売業者のみなさまもしくは仲卸業者のみなさまから要望が強かった都市高速代及びガソリン代への支援については直接的な経済活動への支援は難しいということから、他の支援策を充実する枠組みの中で、対応をしたいと考えている。

ただ、一方では、やはり仲卸業者や小売業者のみなさま方から、この2つは大きな影響がある、何とかしてほしいという強い要望が根強いところも、現場を担当するものとして、十分承知している。

事務局： 今、委員から要望等について、発言があったが、今の課長の説明のとおり、これまで市場関係者及び関連業界の方々と鋭意協議をし、そしてまた要望を頂きながら、それに対する回答という形で進めさせて頂き、ここまできた。ただ、基本設計を終え、実施設計に入っていくという非常に重要な時期にきている。委員の発言にもあったように、非常に厳しい中ではあるが、要望を取りまとめたことであるので、我々としても要望をしっかりと受け止めて、農林水産局ということではなく市としてしっかりと受け止めて、できる限り検討した上で、安心して新市場へ移転していただけるよう進めていきたい。

委員： 時期的に基本設計が終わって、実施設計に入り、来年3月には実施設計も終わる。そのような中で、要望に対してはもう取りまとめていなければならないのでは。できるところ、できないところはあるかと思うが、できないところは代替案を出すなど、トップが英断し、早急に決めるという姿勢で、ぜひ取り組んでほしい。時期も迫っているので、英断を期待している。

事務局： 非常に大事な局面に来ているので、委員及び関係業界のみなさま方と協議の上、早急に進めていきたい。

委員： 福岡市の経済、市民の食生活を支え頑張ってきた小売業の方々が、新市場移転について、いろんな経費が生じる中で廃業せざるを得ないという選択をすることになれば、本当に大変だと思っている。直接、何件か聞いたが本当に大変だと感じている。それでぜひ都市高速代やガソリン代の支援について、なかなかという話もあるが、展望のある施策をもう出さないと、ますます見えなくなると思う。

人工島への移転自体については、土地処分するため、破綻救済のためにこういうところに移転してはだめだと従来議会でも言ってきた。今回このように移転を進めているが、小売業者及び関連業界のみなさんに展望を与えるように進めていただきたいとくれぐれも言っておく。

議長： 「新青果市場整備事業の進捗状況について」の報告について、何か意見・質問は。

委員： なし

議長： これをもって、平成24年度第1回福岡市中央卸売市場開設運営協議会を閉会する。